



TITLE:

資本主義の型

AUTHOR(S):

堀江, 保藏

CITATION:

堀江, 保藏. 資本主義の型. 経済論叢 1933, 37(5): 751-756

ISSUE DATE:

1933-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130368>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號五第

卷七十三第

行發日一月一十年八和昭

論叢

營業收益稅改造の一案

法學博士 神戸正雄

勞銀と利子

文學博士 高田保馬

時論

潜在偏向性の我がインフレーション

經濟學博士 小島昌太郎

研究

中央銀行の發行準備に就いて

經濟學士 松岡孝兒

資本蓄積と資本有機的構成の變化

經濟學士 柴田敬

國際カルテルに就いて

經濟學士 磯部喜一

アングロサクソン時代の社會單位について

經濟學士 竹中靖一

說苑

小賣商業の競争と分業

經濟學博士 谷口吉彦

資本主義の型

經濟學士 堀江保藏

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁載轉）

資本主義の型

堀江保藏

ハーヴァード大學のグラス教授は、曩に聚落の形態を中心とする經濟發達階段説を立て、¹⁾次にブユツヒヤーの説を敷衍して工業發達階段説を立てたが、最近又「資本主義の型」と題する一文を發表して、資本主義は社會主義に對立するものに非ず、社會主義に對立するものは寧ろ個人主義であると論じ、原始時代より現代に至る資本主義の發達階段説とも稱すべきものを立てた。この説は經濟史研究上何らかの參考になると思はれるから、左に之を紹介しよう。

グラスに於ける資本主義定型化の標準は、資本の所有・支配・使用の三者が、同一人又は同一家族に結合せられてゐるか否かにある。之に従つて資本主義は次の

三つの型に分類せられる。

一、自生型資本主義 (autogenous type of capitalism)

これは資本の所有・支配・使用の三者とも同一人又は同一家族に歸屬する場合である。人類が火の利用によつて他の動物から分化したやうに、彼等は資本の蓄積によつて他の動物から區別せられる。即ち生産の目的を以て物資を蒐集するところに人類經濟生活の特質が存する。原始人類の資本は生産用具の形をとつて居り、量に於ては大でなかつたが、それを使用すると否とは死活に關する事柄であつた。例へば衣食住の資料を蒐めるための、又狩獵・漁撈を行ふための武器や道具がそれであつて、後には鋤・鍬等の耕作用具も現はれた。而して此等の資本から所得を得るために、初期の人類は自らそれを使用しなければならなかつた。勿論貸借も行はれたが、それは仲間の者を助けるためであつて、物質的報酬を受けんがためではなかつた。遊牧民族は羊や山羊の群を持ち、牛や馬の群を持ち、更に車をも持つて居たが、此等は即ち資本であり、従つて彼等の

- 1) Gras, N. S. B.; An introduction to economic history. 1922. (加藤博士譯「綜合經濟史」)
- 2) Industrial evolution. 1930. 拙稿「グラスの工業發達階段説」(本誌 第33卷1號) 參照
- 3) Types of capitalism. in: Facts and factors in economic history, articles by former students of E. F. Gay. 1932.

生活は資本主義的であつて、實に彼等の所有する動物は、略々古代資本主義制度にける奴隸や、現代に於ける機械にも比せられてゐるのである。

要するにこの型の資本主義に於ては、資本の提供者と使用者とは同一人であつた。資本の需要と供給とは一個人又は一家族のうちに於て完了し、其等の個人又は家族はあらゆる危険を負担して、全利潤を得るか全損失を蒙るかである。

二、直接投資型資本主義 (direct putting-out system)

自生型資本主義に對して新たに直接投資型資本主義が現はれた。この新しい制度に於ては、資本の提供者と使用者とは最早同一人ではないが、彼等は相互に接觸し、資本の提供者はそれを直接使用者に投資する。即ち資本の需要と供給とは最早合一的ではないが、それらは尚ほ相距ること遠きにあるわけではない。

この型は、貨幣が交換の媒介となり價值の尺度となつた時に、即ち鑄貨が不便利な秤量貨幣に取つて代つた時に大々的に起れるものであつて、總て此等の事象

は都市經濟が村落經濟に代つた時に起つて居る。歴史的に見ればこの事は古代にも地中海方面には屢々見られたが、最近のものは第十一世紀乃至第十四世紀に始まり、現代にまで發展した。

今この型の資本主義の若干の例を舉げんに、その第一は中世期に殊に盛んに行はれた高利貸借であつて、富裕なる商人が資本を提供し、地主・教會及國家の役人・企業家がその資本を使用した。資本提供者の隨一はユダヤ人であり、ロンバルド人やカオルシン人が之に次いたが、苟も商業によつて富を蓄積せるものは、宗派・國籍の如何を問はず資本の提供者となつた。教會が利附貸借を禁止せるため、それに關する記録は豊富でないが、その豊富でない記録によつても右の貸借が行はれたことは明かであり、利附貸借の禁止その事が、右の事實を反證する。

第二は一時的組合 (temporary partnership) を假裝せる貸借である。かゝる組合は實際に行商又は航海にたづさはるものと、自身は之にたづさはらざるものと

間に結ばれ、主として前者は資本の使用者、後者はその提供者であつて、一航海或は一行商毎に最初の協約に従つて決算が行はれた。この一時的組合に於ては、資本家は自己の投下資本を直接使用せずして所得を得んことを求め、商人は自己の資本の全額投資、従つて全額の危険負擔を免がれんことを求むるのであつて、何れにしても初期の資本主義の型を脱せんとするのである。之と類似のものに定期組合 (partnership for a stated period) がある。これは中世の伊太利及西歐に發展せしものであつて、多く三、四年の期間を限り、家族又は親族を組合員とした。この組合のうちには全組合員が同時に資本家であり、企業家である場合もあつて、この場合は勿論自生型資本主義に屬するのであるが、組合員の一人が資本の提供者で他がその使用者である場合も屢々見受けられた。

第三は十四世紀の半頃より十九世紀の始めにかけて行はれ、海上保険の原初形態である underwriting の制度である。これは色々の種類の資本所有者が十數人相

資本主義の型

寄つて、一航海につき生すべき危険を、各自が例へば五十磅、百磅づゝ負擔する制度であつて、當初は資本所有者相互の融通を目的としたが、後には危険の負擔による利潤の源泉となつた。この制度は、投下せらるゝものが寧ろ信用であつて現實の資本でないといふ點を除いては、直接投資型資本主義の適例である。この制度より以前に行はれた冒險貸借も亦この型の資本主義に屬するものである。

第四の例は、中世末期に初めて現はれた株式會社である。言ふ迄もなく株主が資本の提供者であつて、彼等のうち資本の使用方面即ち經營にたづさはるものは次第に少數となり、今日では經營の大部分は有給役員に委ねらるゝことゝなつた。

要するに直接投資型資本主義は、資本の所有及び支配の大部分が一個人又は一團體に歸屬し、資本の使用は別個の個人又は團體に存するところに、換言すれば資本の所有及支配は未だ人格的に分離せざるところに、その特徴がある。

三、間接投資型資本主義(indirect putting-out system)

これは資本提供者がその資本を一旦貨幣仲介業者に委託し、仲介業者が代つて使用者に投下する制度である。貨幣仲介業者の著例は銀行であるが、その外にも保險會社や投資信託がある。

貨幣仲介業者の先驅は個人銀行であつて、それは都市經濟の初期に興つた。即ち兩替商及貸金業者が預金をとり之を他に貸付くるや、茲に彼等は銀行業者として特殊の機能を果す事となつた。之に次ぐものは公立商業銀行である。此等は政府若くは都市當局と特殊の關係を結べる株式會社組織のものであるが、併し一般的商業銀行として資本需給の仲介に任じた。公立商業銀行のうち先づ起つたのは都市銀行であつて、バルセロナの預金銀行、ゼノアのセントジョウジ銀行、ヴェニスのリアルト銀行、アムステルダム銀行、ハンブルグ銀行等がそれである。スエーデン銀行・英蘭銀行・蘇格蘭銀行・合衆國銀行・佛蘭西銀行の如き國立銀行がそれに續いて起つた。

此等の個人銀行並に公立商業銀行は、數世紀間、顧客に對して全く消極的な關係を結んでゐた。預金の受入及貸出を多少機械的に行ひ、借受くる者が確實であるかを確かむるを以て萬事畢れりとした。然るに獨逸帝國が形成せられて、經濟發展の大なる可能性が看取せらるゝや、獨逸の諸銀行は、貧弱な資産を以て有利に活動せんがためには、積極的方針に轉換することを餘儀なくせられ、茲に一致團結して鐵鋼業・電氣事業・海運業・貿易業等に投資を行ふに至つた。而して過渡の信用膨脹に伴ふ危險を避けんが爲めに、融資せる諸會社の經營に對して發言權を主張し、この支配は取締役兼任制度によつて實行せられた。この種の銀行業務はウォール街にも現はれた。一八六九—七三年のクーク會社(Jay Cooke and Company)の北太平洋鐵道會社に對するが如き、一八九三年以後モルガン會社の鐵道・海運・工業諸會社に對するが如きそれである。

貨幣仲介業者は十九世紀以後頗るその種類を増加した。十九世紀初頭に起れる貯蓄銀行及投資銀行、南北

戦争以後米國に現れた信託會社・安全預金會社・投資管理人・投資相續者などそれであるが、最も重要なのは保險會社及投資信託であらう。保險會社のうち特に生命保險會社は、生存保險に於て純粹の保險と貯蓄とを組合せ、日々受入れる巨額の保險料を各種の物件に投資してゐる。投資信託はいはゞ投資の代行會社であつて、それが貨幣仲介業者たるは言ふを俟たず、殊に米國に於ては近時頗る發展しつゝある。

要するに間接投資型資本主義に於ては、資本の支配は資本所有者の手を離れて貨幣仲介業者の手に歸し、彼等が錯綜した金融機構を管理する責任を持つに至つたところにその特徴がある。而てこの型の資本主義はその發展過程に於て諸々の事情を伴ふ。第一にそれは貨幣仲介業者の優れた知識と大なる經驗との故に、資本提供者に非常な安全を齎らした。第二にそれは使用者に對する資本の効用を、恐らくは危險なる範圍にまで増加した。第三に企業は手数料と利潤とより成るところの貨幣仲介業者の勞務費用を負担しなければなら

ないことゝなつた。第四に貨幣仲介業務に於て著しく信用が發達し、貨幣經濟に代つて信用經濟が樹立せられんとするに至つた。尤も信用の基礎は依然貨幣なるが故に、貨幣信用經濟 (money-credit economy) と呼ぶべきである。第五に資本の支配が比較的少數の貨幣仲介業者に著しく集中することゝなつた。

個人主義的資本主義と社會主義的資本主義 十九世紀に入つて、資本及資本主義に對する關心は、漸次社會主義者によつて開發せられ、彼等はこの問題に對して如何なる他の團體よりも多くの注意を拂つた。彼等の思想に於ては、資本主義は、勞働者の犠牲に於て富及勢力を増加する有力なる制度であるやうに見えた。而して資本主義は搾取と同意語たらんとするに至つた。併し勞働者の搾取夫自身は決して資本主義の本質ではない。蓋し生産の目的を以てする物資の蒐集即ち資本の蓄積は、人類經濟生活の特質であり、從つて資本主義は人類の生活に缺くべからざる手段であるか

らである。唯併し、資本主義は個人主義に沿うても、亦社會主義に沿うても發展し得べきものであつた。偶々人類の經濟發達の過程に於ては、地方的或は一時的の例を除き、資本主義は個人主義に沿うて發展し、前述の如き三つの型を示顯した。而も第三の型に於ては、資本の所有はその支配から離別せられ、支配の集中を社會的に有効ならしむべき手段が貨幣仲介業によつて示されてゐないといふ懸念すべき事態が起つてゐる。現代に於ける主なる問題は、この型の資本主義對資本の社會主義的支配であり、拒否すべきは資本主義そのものではなくて、今日優位を占めてゐる形式の資本主義である。

以上がグラスの所説の概要である。

そのうちに於て先づ問題となるのは資本の概念であらう。彼は、自生型資本主義に於ては所謂生産資本を資本と稱し、其他の資本主義に於ては所謂營利資本を資本と稱して居る。言ふ迄もなく生産資本と營利資本

とは必ずしも楯の兩面ではなく、從つてその範圍をにしない。又生産資本は生産力の基本としての資本であつて、それは一定の制度を豫想しないが、營利資本は収益力の基本として見たる資本であつて、それは一定の制度、即ち私有財産制度を豫想する⁴⁾。斯の如く相異なる二種の資本を一樣に資本と稱してゐるのは、彼が貨幣・株式・債券等は、眞實の生産要素たる道具・建物・原料・其他の設備、即ち所謂生産資本の徵表にすぎない⁴⁾と考ふるが故である。

右の點に於て、彼の所説は若干の補正を要するであらう。併し乍ら彼の説は、生産資本と營利資本との歴史的分化過程を考慮に入れるならば、資本の所有・支配・使用の三者の分化過程の型、從つて迂回生産發達の階段を簡明に示してゐるといふことが出来る。

4) 高田博士「經濟原論」、37—38頁參照